

【本年度の重点目標】  
みんなで! みんなを!!  
(同じベクトルで、あったかい集団を)

学校教育目標 「一人一人が生き生きと輝き、知・徳・体の調和のとれた自律した子どもの育成」

【学校経営の基盤】  
日本国憲法、教育基本法、学校教育法等の精神及び学習指導要領の趣旨に基づいた教育を推進し、生きる力を育み心豊かな人間性の育成を目指す教育を展開する。  
学校教育は生涯学習の基礎作りであるという認識に立ち、体験的な学習や問題解決的な学習を重視しながら、一人一人に確かな学力と自ら学ぶ意欲や態度が身に付くようにする。  
北九州市の学校教育の願いや平成31年度指導の重点及び「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」「北九州市学力・体力向上アクションプラン」「スクールプラン」をふまえ、子ども、保護者、地域の願いに応える教育を推進する。

【目指す子ども像】  
わ わになって 【いじめのない仲のよい子】  
か かしく 【頭も心も体もかっこいい子】  
っ 強い心で 【がんばる子(自ら伸びようとする子)】  
こ 根気強く 【あきらめない子】  
+1 【笑顔いっぱい为学校をつくろう!!】

【具体的な子ども像】 ～凡事徹底～  
広い心 ◎誰とでも仲良くする◎協力して仕事をする  
健やかな体 ◎健康、安全に気を付ける◎正しい食生活を実行する ◎運動に親しむ  
豊かな創造力 ◎しっかり聞く  
◎本に親しむ◎家庭学習に取り組む ◎意欲的に学ぶ  
自律と公共の精神◎自分から気持ちの良い挨拶をする ◎適切な言葉づかいをする  
◎黙って掃除をする ◎名札、はし、マスクを忘れない ◎時間を守る ◎廊下を走らない(生活・学習がんばりカードの活用)

【目指す学校像・教職員像】  
○規律のある落ち着いた学校 ●学校のきまりを守らせ、学習規律を整える教職員  
○確かな学力・体力の向上を目指す学校 ●教育愛に燃え、授業力向上を目指す教職員  
○保護者や地域と連携し開かれた学校 ●保護者や地域と連携を惜しまない教職員  
○組織としての力を発揮する学校 ●報・連・相そして、確認まで組織で対応する教職員

教育目標具現化の努力点・具体的方策

【学校教育目標達成の環境づくり】  
① 支持的風土に支えられた学級づくり(学級集団づくり)  
② 地域に開かれた学校(学習参観、開放週間、学校評価等)  
③ 家庭との連携の充実(学級懇談会やPTA活動等への協力と参加、積極的な連絡や助言)  
④ 地域の教育資源や教育力の有効活用  
⑤ 地域と連携した防災教育の実施  
⑥ 家庭や地域と連携した安全の確保(スクールヘルパー、ブックヘルパー、登下校安全指導、いっせいくんの活用)  
⑦ 情報の発信(学校HP、学校だより、学年・学級だより 家庭訪問等)

【教育活動の充実と規律ある学校生活づくり】  
① 子どもの心の居場所づくり(担任、学年主任、支援加配、生徒指導主任、養護教諭、等による密接な連携と取組)  
② 生徒指導の充実(共通理解と同一対応、早期発見と早期対応、危機管理意識(サシスセソ)の高揚と問題事象への緊急対応)  
③ 清掃指導や給食指導の充実(子どもと心の交流の場)  
④ 小中一貫・連携教育の充実(企救中、北方小)  
⑤ 学習機会の拡充と学習内容の定着(意欲的に取り組む家庭学習の工夫、補充・発展学習の工夫)、全国学調、北九州学調、CRTの活用  
⑥ 時代の変化に対応する資質や能力の育成(外国語活動、外国語科、情報処理、主体的・能動的学習の育成)

【授業力向上と職員のチームワークづくり】  
① 全校体制で策定・実施・検証・改善のできるスクールプランの作成と推進  
② 主題研究の推進(主体的・対話的で、深い学びを目指して)  
③ 職員研修の充実(事務改善会議、体罰、飲酒運転、セクハラ等 不祥事防止、業務改善研修、LGBTの研修、学力・体力向上推進員の活用)  
④ ワークラフバランスを大切にした職場(19時退勤を)  
⑤ 確かな手ごたえを実感できる研修の充実(人材育成の研修)  
・学年会の設定 ・若年研修の充実(教職経験8年未満)  
・小学校体育授業パワーアッププラン、1校1特色運動の活用

【教科 → 確かな学力の向上、健やかな体の育成】  
○ 基礎的・基本的の確実な定着を図る。  
・ 学習意欲の喚起と感動のある学習、協働的な学習  
・ 思考力・表現力・判断力の育成  
・ 学習活動・学習形態・教材教具等の工夫・理科専科の活用  
○ 意図的、計画的な実践 → 年間指導計画の見直し、作成する。  
○ 新スポーツテストを全学年・全種目で実施(6・7月)する。  
【道徳 → 心の育ちの推進 ・ 道徳科】(教科書の効果的な活用等)  
○ 年間計画に沿って、計画的、継続的な指導を行う。  
・ 時数の確保及び指導方法の工夫改善に努める。  
【特別活動 → よりよい生活や人間関係を築こうとする児童の育成】  
○ 個性の伸長と集団の一員である自覚を深め、協力してよりよい生活をしようとする自主的・実践的な態度の育成を図る。(縦割りグループの活用)  
【総合的な学習の時間】  
○ 地域の素材を活かした教材を開発し、子どもの生き方を考えさせる 教育計画を作成・実践する。  
【特別支援教育 → 子ども一人一人の教育的ニーズに応える】  
○ 一人一人に合った、効果的な特支学級と交流学級との連携を図る。  
○ LD・ADHD・高機能自閉症等を含め、特別な支援を要する児童の実態を十分に把握し、一人一人の特性に応じた適切な指導体制と指導計画にもとづき、一人一人の特性に応じた指導に努める。  
○ 関係機関との連携を深め、一人一人の特性に応じた指導に努める。  
【外国語活動・外国語科】(外国語専科の活用)  
○ コミュニケーション活動の楽しさ、ALT等と連携した効果的な指導



【人権教育 → 「学校教育における教育活動の基盤である。」という認識のもと、全教育課程の中で推進】  
○ 人権意識の高揚に努めるとともに、わかる授業の実践に努める。  
○ 自他の人権を守ろうとする意識・意欲・態度と実践力を結びつける。  
→ 「北九州市子どもつながりプログラム」を確実に実施する。  
○ 解推協等への確実な参加 → 年2回程度、計画的に参加する。  
【生徒指導 → 危機管理の「さしすせそ」による対応】  
「さ」最悪の事態を想定して 「し」慎重に  
「す」素早く 「せ」誠意をもって 「そ」組織で  
○ いじめの早期発見に努め、職員の連携により早期解決を目指す。  
○ 不登校児童に対し、職員の連携による問題解決に努める。  
○ 家庭や関係機関との綿密な連携を図る。  
○ 「1に29、29に300」(ハイソリックの法則)の危機管理意識の高揚  
【防災教育 → 主体的に行動する力の育成】  
○ 防災対応能力の基礎の定着を図る。 → 避難訓練、年3回の実施  
【学校図書館教育 → 読書好きな子どもの育成、シビックプライドの醸成】  
○ 学びの場としての学校図書館の環境整備と読書活動の充実を図る。  
【食育 → 栄養教諭と連携した食に関する指導。望ましい食習慣の育成】  
○ 食に関する指導を計画的に実施。保護者への啓発のための取組も。  
【国際理解教育 → 「多文化共生の理念」の育成。『宇宙船地球号』】  
○ 自文化理解 地域によさ、北九州によさ、我が国によさを実感させる。  
○ 異文化理解 ALT等との積極的な関わりで異文化のよさを実感。共生観を。